



昔、延宝・天和の頃（一六八一～八四）露の五郎兵衛という人が、此所、北野天満宮をはじめ、祇園真葛が原、四条河原、百万遍、その他諸所の開帳場に場所を占め、自作の笑いばなしを口演、都の名物男と言われ、日本の落語家第一号となりました。

元禄十六年（一七〇三）六十一歳で亡くなるまで、都の人気を一身に集め、数部の咄本を著わし、遺した咄三百数十話、直接、間接に、現行落語の原話になっているものが沢山あります。

ゆかりの名前をいただいております私、落語生活五十年を期に、開祖の碑建立を発願し。北野天満宮様の御好意と、社団法人京都デザイン協会・柴田石材様はじめ四方諸兄姉の御賛同、御協力によつて完成致しました。

日本最初の落語家、露の五郎兵衛師の偉業をたたえ、遺徳に感謝し、ここに顕彰するものであります。

建立人 二代目露の五郎

平成十一年三月吉日

露の五郎記念落語会



「露の五郎兵衛」碑建立記念

の五

念記

落

五語

会

ごあいさつ

本日は、かく賑々しき御来場、ありがたく厚く御礼申しあげます。
念願の露の五郎兵衛碑建立、その除幕を致しました、心嬉しい落語会。
今日に(京に)因みました演目を並べてみました。
お時間まで、ごゆるりとお楽しみ下さい。

平成11年4月10日

露の 五郎

卷之三

(1)

落語 池田の猪買い

歸田錄



人艸_{（草）}や
露乃
來た野_{（北野）}の
五郎兵衛_{（ごろうびょうえ）}

山東京伝『近世奇跡考』より

(五) 芝居嘶 加賀見山

京都、大阪を、水でもすんだ淀川を、上方嘶の世界を、大和楽に、たくみに取り込んだ、面白い作品です。十石、伏見の浜から、天満の浜へ。上り下りの三

(四) 舞蹈 三十石

中ノ日

(三) 落語 たけのこ

落語家のはじまり 第二号 露の五郎兵衛は自らしゃべつただけでなく、生前没後に、数種の咄本が出ておりまして、これはまあ、作品集とでも申しますようか、三百数十話が残されていります。

その中の一席

(一) 落語 平林

露の
団
六

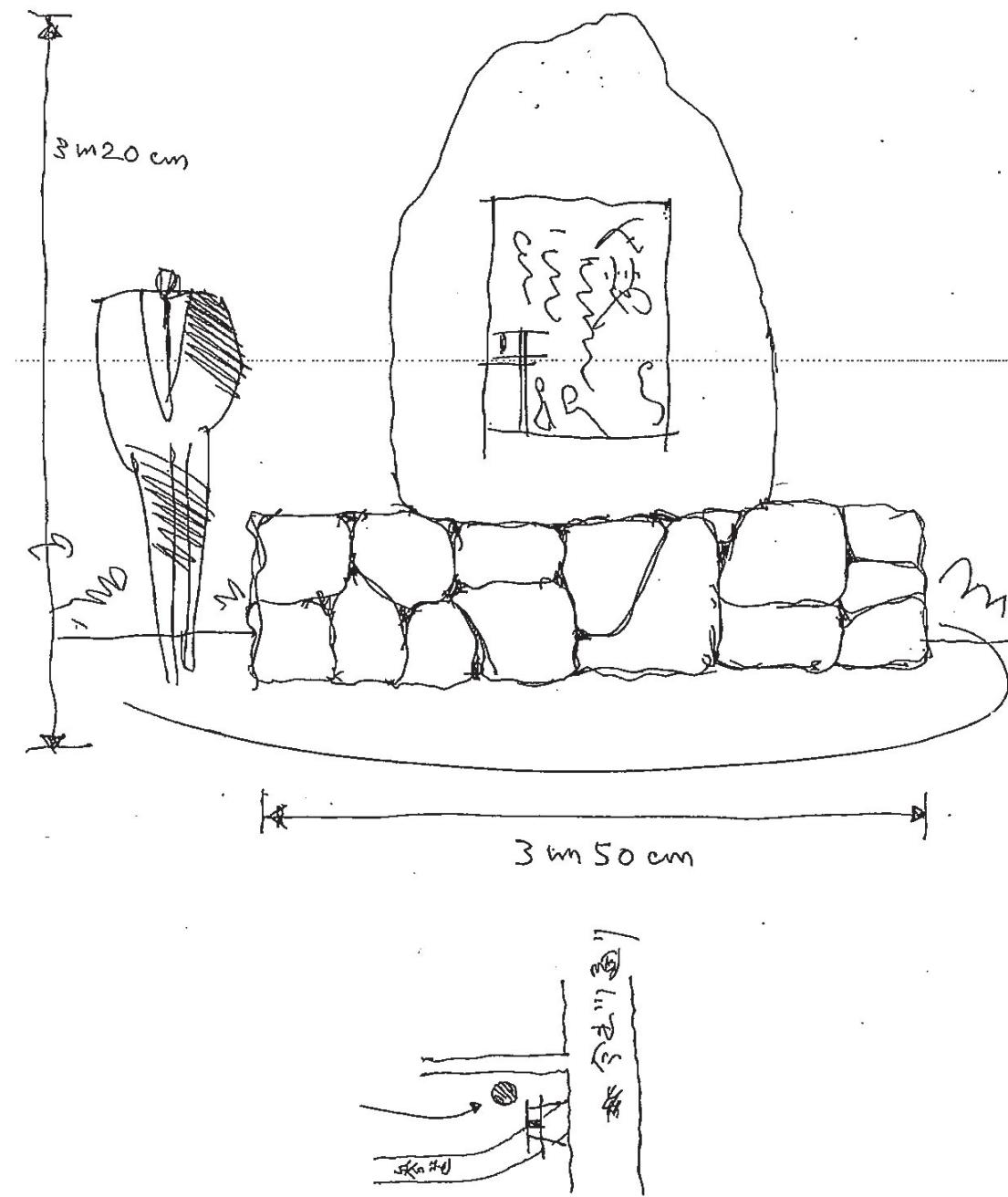
トリはタツブリ、演者十八番の芝居嘶。
桜満開の清水寺でくりひろげられる歌舞伎「加賀見
山旧錦絵」の序幕。
一幕スッカリ、これこそ、見る嘶の決定版。

やむをえぬ都合による演者演目の変替はおゆるし下さい。

黒川五郎兵衛の碑
大野天満宮境内建立



平成十一年四月十日



上方噺のはなし

文二 露の五郎 [落語家]

野天と座敷ではじまつた

時は元禄（一六八八—一七〇四）、場所は

京都の北野天満宮。その鳥居をくぐった所に

広床几（ひろしようぎ）を置き、頭巾をかぶ

った入道姿の男が机を前にして座っています。

その前には幅のせまい床几が二、三脚、老

若男女がたむろして、頗る良しと見た件の

人道、かたわらの湯呑を取りあげて、おもむ

ろに口をしめし――

さて、さる時、さる所、猿師、猪を見つけ

て、これを撃とうとしたのやが、この猿師、

いささか慌てたものとみえて弾を忘れ、空鉄

砲をはなした。

ところが、猪がまた、うろたえもの、いや

いや、「もの」ではのうて、うろたえ、「けも

の」であったとみて、音にびっくりして氣

を失うた。と、そこへやって来た猪買い。猿

師、これさいわいと売ろうとしたが、この猪

買い、「向と、この猪には鉄砲の傷もない。

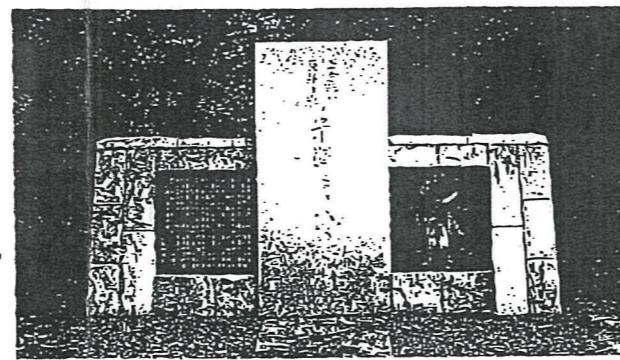
いつ死んだも知れぬ。古うはないか」

猿師「たつた今撃ちました」

「いや、古そな」と、猪買い引き返すと

ころへ、かの猪むくむくと起きあがり、山を

生國魂神社の境内にある
米沢彦八の顕彰碑



たらしいのですけど、生・没年がはつきりしまへんのや。そこへもつて来て、四代まで襲名した人があるもんですさかいに、初代、二代、三代、四代がゴッチャになつてしまひ、えらい、ややこしい事になつてますのや。

けど、まあ、そこの所はいろいろな説をにらみ合わせて、貞享から享保のはじめ（一六八四—一七二〇年頃）にかけての人らしいでおます。彦八さんも、露の五郎兵衛さんと同じように、はじめは新町の西口で「辻ばなし」をして、いたらしいのですけど、宝永・正徳から享保、すなわち、晩年は生玉社境内の樹小屋ではなしをして、生玉の名物になつたのであります。

この米沢彦八を大阪落語の祖として、その顕彰碑が、生玉社、現在の生國魂神社の境内に建てられたのであります。平成二年（一九九〇）のこと、これは五代、六代の笑福亭松鶴の念願でしたが、はたさぬままに逝き、その遺志をついだ笑福亭一門が中心になつて出来あがつたのであります。

鹿野武左衛門はともかく、露の五郎兵衛、米沢彦八の作と言われる晴で、今日も演じられている落語は数々おますし、両者の作が原話と見られるものは枚挙にいとまがありません。

五郎兵衛が「軽口ばなし」、武左衛門が

「座敷仕型ばなし」と呼ばれたのに対して、彦八のはなしはその名をかぶせて「彦八ばなし」と呼ばれまして、その笑いの種は、弟子たちによつて諸国にばらまかれたよつて、地方における笑話の口承者や、はなしのタイト

さしてトコトコトコ、
猿師指さして、「あれ、あの新しさを」と
一同、やんや、やろうじ

（現行「池田の猪買」の原話）

とまあ、こんなやいに、落語家の第一号が大衆の前に姿を現したのであります。日本の落語家の滥觴（らんしょく）。その人の名

は、露の五郎兵衛。

出生や経歴は明らかやおません。活躍の時期についてもさまざまですが、伝説によりますと、寛永二十年（一六四三）の生まれ、延宝、天和（一六七三—一八四）にかけてが三十

歳代。浪人者で、或る時、人の為に人を手にかけ、後に入道して露体（ろきゅう）と名乗

ったのやそうで、元禄十六年（一七〇三）秋、六十一年で亡くなつたんですが、京洛の人寄り場所をかけめぐり、祇園、真葛ヶ原、北野

天満宮、四条河原、百万遍、その他諸方の開

張場に、五郎兵衛の姿、かならずあり！

言われて、人気を一身に集めたのであります。

残念ながら、弟子というような者が無く、没後、名は絶えてしましました。

彦八の名は全国を巡る

京に露の五郎兵衛、江戸に鹿野武左衛門、

その頃、大阪では、米沢彦八がその名をうたわれおりました。

歳は五郎兵衛さんより二十歳くらい若かつ

治が亡くなつたのが昭和二十八年、残つたのは、長老組で文枝、文團治、南天、円都の四師ぐらい、苦手がじ、八人でしたか。上方落語の灯が消えた、と言われたものであります。

それが現在、おかげさまで、上方落語協会員一五一名。一応は、私達の次の世代へ引き継せたのではないか、と思つております。

さて、次の世代は……。

どうぞ、よろしくおたの申します。

花も嵐も踏み越えて…

以来三百余年、最盛期、黄金時代と言われる明治の落語界。大正を経て、漫才と対決を余儀なくされた昭和の始め。戦争をはさんで昭和二十二年、上方で戦後最初の寄席、戎橋

昭和二十二年、上方で戦後最初の寄席、戎橋松竹がオーブンした時には、二十人そこそこ

の落語家、それも最長老の林家染丸、慶應三

年生まれの八十歳から、入門した

ての最年少、桂春坊（筆者）が

十五歳、少年落語家と呼ばれた、子供の笑福亭小つるまで入門をさすように、私の師匠、二代目桂春坊

現 在

昭和7年 京師生まれ。

昭和22年 2代目桂春坊（入門）。

昭和43年 2代目桂春の五郎を襲名。

昭和44年 大阪文化祭賞受賞。

昭和48年 大阪府民効率賞受賞。

昭和61年 昭和60年度文化功劳者賞受賞。

昭和65年 大阪市民文化功労者賞。

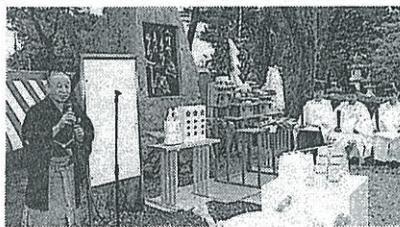
平成5年 「上方落語のはなし」（朝日新聞社）著書やテレビでの巧妙な演技、語感豊富な講演も好評。上方笑芸の原点「大阪」「わか」の継承にも力を注いでいる。

上方落語協会会長。



山東京伝「近世奇跡考」より





除幕式で、露の五郎さんは「たくさん人の寄付で立派な碑ができた。恩は芸で返したい。現代に明るい話題を提供でき、こんなにうれしいことはない」とあいさつ、碑のわきに桜の苗木を植樹した。近くの上七軒舞練場で露の五郎一門に

日本初の落語紹介
北野天満宮境内に
露の五郎兵衛記念碑

割りや落語、大道芸などで境内にはぎわつた。記念碑は、二年前に落語家五十年を迎えた露の五郎さんが発案。京都デザイン協会（本郷大田子会長）が広く呼びかけてゆかりの地である一の鳥居近くに建立した。高さ約三尺の自然石に、江戸後期の山東京伝「近世奇跡考」にある露の五郎兵衛のさし絵を彫った御影石をはめ込んでいる。

▼江戸時代、除幕式があつた。
京都の北野天満宮などで活躍した日本初の落語家、露の五郎兵衛を記念する碑。写真左が阪神の落語ファン約千人が寄付金を寄せた。碑面には、完成し、十日、同天満宮で

▼華やかな元禄の時代に比べ、今は不況の真つただ中。いつもは軽妙な語り口の露の五郎さんは「不況なのに大勢のファンが寄付していく。この恩は芸術で返します」としんみりと話していた。

五郎兵衛の碑 京に建立

三
二

二年前、京都で開かれた文

同じして、完成した

同じで、完成した。

Lx

われる露の五郎兵衛の碑が、ゆかりの京都市上京区・北野天満宮の一の鳥居横にできる。五郎兵衛にちなんだ名前を継ぐ露の五郎らが建立をする。五郎兵衛は約三百年前の江戸時代、北野天満宮境内や四条河原町などで客を集め、野外で自作の笑い話を演じた。

10日、除幕式と落語会

記念落語会は五郎と、弟子の団六、団四郎らが出て、五郎兵衛の作といわれる「池田の猪買い」など五席を演じる。一千五百円。

落語発祥の地 北野天満宮

1994年4月

上方の祖の 記念碑を建立 10日に除幕式

露の五郎兵衛さん顕彰

落語発祥の地とされる上
京区の北野天満宮に、上方
落語の祖とたたえられる落

語家「露の五郎兵衛」を顕
彰する記念碑が建立され
た。十日、除幕式を行い、
設立を呼び掛けた露の五郎
さん(元西宮市)らが出

席して完成を祝う。
露の五郎兵衛は、江戸初
郎さんは、落語家歴五十年

偉大な祖の名を継いだ五
郎兵衛が描かれた江戸後期
の『近世奇跡考』の挿し絵
を参考に、碑のデザインも

決めた。

記念碑は一の鳥居をくぐ
つてすぐのところに建てられ、五郎兵衛が初の落語を
演じたとされる正に同じ場所。深い緑色をした自然石
で、高さ三・二㍍、幅三・五㍍。中央部に黒の御影石
をはめ込んだ。

除幕式は十日午後一時半
から行い、鏡開きや五郎さ
んの弟子が五郎兵衛の落語



日本初の落語家をたたえる記念碑を見上げる
露の五郎さん

を迎えた一昨年、碑の建立
を再現する。午後四時から
は同区の上七軒歌舞練場で
五郎さんの独演会(有料)
もある。

期の北野天満宮で日本初の
落語を演じたとされ、同天
満宮の記録にも落語家とし
ての五郎兵衛の名前が残っ
ているという。

近くで民衆相手に演じた五

郎兵衛が描かれた江戸後期

の『近世奇跡考』の挿し絵

を参考に、碑のデザインも

決めた。

記念碑は一の鳥居をくぐ
つてすぐのところに建てられ、五郎兵衛が初の落語を
演じたとされる正に同じ場
所。深い緑色をした自然石
で、高さ三・二㍍、幅三・五㍍。中央部に黒の御影石
をはめ込んだ。

除幕式は十日午後一時半
から行い、鏡開きや五郎さ
んの弟子が五郎兵衛の落語

1997.12.4 織研新聞

告知板

ラム「露の五郎・話芸を楽しむタバ」（京都デザイン協会（本郷大田子理事長）は、第6回文化ナイト「露の五郎・話芸を楽しむタバ」を、5日午後6時から京都市の上七軒歌舞練場で開く。参加費2000円。同協会は「デザイ

1997.12.6 京都新聞 朝刊

発祥の地に上方落語の祖

露の五郎兵衛碑建立へ

北野天満宮で地鎮祭

匠に、「お礼ができない」と話している。

露の五郎兵衛は、江戸時代初期の京都の人。同天満宮で日本初の落語を演じた

江戸後期の戯作者山東京伝の「近世奇蹟考」の挿絵
で、同宮鳥居近くで民衆をとされる。

落語家露の五郎さん（五〇）
＝西宮市＝が落語発祥の地
とされる上京区の北野天滿宮に、上方落語の祖とされる「露の五郎兵衛」の記念碑の建立を計画、五日に行われた地鎮祭に参列した。露のさんは「露のの名」で半世紀落語をさせてもらつた。名を頂いた五郎兵衛師



露の五郎兵衛が初めて落語をした地で、記念碑建立の地鎮祭に参列する露の五郎さん

う。「露の」の名を受け継いだ五郎さんは芸歴五十年を記念し、五郎兵衛の碑を建てようと計画した。「記念碑は、山東京伝の本の

かかる。詳しきは同協会事務局(541)○一二二〇四まで。

同協会では一千二千円で
賛助者を募り、建設資金が
集まり次第、建立にとりかか

の五郎さんが一席披露し、碑の建立に協力を呼びかけた。

ら十一人が参列し、神事が當された。その後、上七軒歌舞練場（同区）で露

この日、五郎兵衛が初めて落語をした一の鳥居近くで、五郎さんや同協会理事

い」とい、京都デザイン協会の協力を得て実現させる。









